

月例研究会についてのお知らせ

日本レジャー・レクリエーション学会
編集委員会 研究部

「21世紀に向けてのレジャーの価値」

- 1) 学会名を日本レジャー・レクリエーション学会に改めたことを契機に、定例月例研究会のテーマを「21世紀に向けてのレジャーの価値」におくことに致しました。このテーマの研究交流を継続し、研究領域の広がり、深まりを追求していきたいと考えております。
- 2) 年間を通じての研究会プログラムとスケジュール等を立てましたので、会員のみなさまにお知らせ申し上げます。できるだけ多くの方に、ご参加をいただきたいと願っておりますので、ぜひ、年間計画の中に位置づけていただきますようお願いいたします。
- 3) 各会の研究プログラム 過去3年間の月例研究会、研究者の所属領域を直面する課題を考慮にいれ、「教育」「環境」「産業」「行政」の4分野と、4分野に共通する「レジャーの価値とライフスタイル」分野の5分野（将来は分科会を想定）を、とりあえず設定してみました。各会の研究プログラムは、この5分野との関連でつくってあります。
- 4) 研究会の進め方 各会、プログラムに即した資料を研究部で作成配布し、問題提起（会員またはゲスト）資料解説の後に、ご参加いただいた会員の皆さん全員とのトークインを考えております。トークインも2部、ないし3部構成にし、トピックスの問題に関連して進めていきます。分野の研究テーマを2回、あわせて10回を予定しています。
- 5) 研究会開催スケジュール（レジャー・レクリエーションをL/Rで略）

	研究分野	各研究テーマ	日時	場所
第1回	L/R-Value&Life style	レジャーの本質について	5- 1-23	
第2回	L/R-Value&Life style	レジャーの本質について	5- 3-27	
第3回	L/R-Education	世界のL/R教育研究の現状と課題	5- 4-10	
第4回	L/R-Education	日本のL/R教育研究の現状と課題	5- 5- 8	
第5回	L/R-Environment	日常性L/R環境の課題	5- 6- 5	
第6回	L/R-Environment	非日常性L/R環境の課題	5- 7- 3	
第7回	L/R-Industry	L/Rのマーケティング課題	5- 9- 4	
第8回	L/R-Industry	L/Rの産業政策課題	5-10- 9	
第9回	L/R-Policy	時短推進を支える社会経済理論(1)	5-12- 4	
第10回	L/R-Policy	時短推進を支える社会経済理論(2)	6- 1-29	

- ・研究会の開催場所については、前半は基本的には『明治大学和泉校舎』（井の頭線、京王線、明大前下車）を考えております。

■ 第1回 L/R Value&Life style 分野

『レジャーの本質を考える—古典的レジャー観に学ぶ—』

日時 平成5年1月23日(土) 14:00~17:00
場所 明治大学和泉校舎

- 1) レジャーの本質についての哲学的レビューを行い「レジャーとは何か(記述的課題)」「レジャーはいかにあるべきか(理論的課題)」を探ります。(古代ギリシャから今日までのレジャー概念の系譜のレビュー)
- 2) 年間を通しての「21世紀に向けてのレジャーの価値」の研究会のねらいと各会のプログラムの構成について詳しく紹介し、さらに会員のみなさんの要望を伺い、プログラムを練り直して参りたいと思います。
- 3) 第1回目は「年間の研究会説明とレジャー概念の説明」を筑波大学、多摩大学の松田義幸常務理事があたります。

■ 第2回 L/R Value&Life style 分野

『レジャーの本質を考える—「新しい人間、新しい社会」の構想—』

日時 平成5年3月27日(土) 14:00~17:00
場所 明治大学和泉校舎

- 1) 第1回研究会の討議を踏まえ、古典的レジャー概念が現代社会、21世紀社会に提起する価値、また今日の社会をリフォーミング、イノベーションする拠り所としてのレジャーの価値を探り、「新しい人間、新しい社会」について、会員のみなさんと構想してみたいと思います。
- 2) 「新しい人間、新しい社会」の構想には、古典的レジャー観に加えてジョン・ラスキン、ソースタイン・ヴェグレン、ヨハン・ホイジンガ、モルチモア・アドラー、さらに、エーリッヒ・フロム、ミヒャエル・エンデ、シューマッハ、チャールズ・ライフ、ダニエル・ベル、デニス・ガポール など、またわが国の未来等に関心を寄せている研究者の考えも参考にしたいと考えております。
- 3) 問題提起としては、ゲストを招く予定にしています。

■ 第3回 L/R-Education 分野

『世界のL/R教育・研究の現状と課題』

日時	平成5年4月10日(土)	14:00~17:00
場所	未定	(検討中です)

- 1) 今日のL/R教育・研究の方向の一つは体育系大学のレクリエーション学をベースにしてきたといってもよいかと思えます。しかし、この体育系大学も、時代の環境変化に適応するために、レクリエーションを中心とした教育・研究からその領域をレジャー教育・研究まで広げて、リフォーミング、イノベーションをはかってきています。
- 2) 一方、行政的には文部省が生涯学習局を設置してからレジャーの問題が生涯学習の中に位置づけられてきています。国立教育研究所は、長期プロジェクトとして、生涯学習のあり方のビジョンづくりに着手しております。
- 3) いま、国内外では、どのようなリフォーミング、イノベーションが図られているのか、その現状を直面している課題について検討を深めようと思えます。
- 4) 第3回目は、この分野の問題に、大学プロジェクトとして取り組んでこられた大阪体育大学の原田宗彦先生、また国立教育研究所の「生涯学習プロジェクト」のご担当の先生に話題提供をお願いしています。

■ 第4回 L/R-Education 分野

『わが国のL/R教育・研究の現状と課題』

日時	平成5年5月8日(土)	14:00~17:00
場所	明治大学和泉校舎	

- 1) わが国において、いま体育系大学が、体育学からスポーツ科学へ、スポーツ・マネジメントへ、そしてレクリエーション研究からレジャー研究へリフォーミングを進めています。
- 2) 順天堂大学は、平成5年度から大きな組織改革を行いました。この組織改革の理念、方法、経営についてのレクチャーを受けた後に、他大学がどのような将来計画を持っているか、みなさんで、話し合っていこうと考えています。

■ 第5回 L/R-Environmet 分野

『日常性L/R環境の課題』

日時 平成5年6月5日(土) 14:00~17:00
場所 明治大学和泉校舎

- 1) 社会の価値観が変質しつつある今日、人々のレジャーやレクリエーション活動に対する志向もまた大きく変化しようとしています。L/R活動のための環境整備の在り方も、そうしたL/Rの志向の変化や、L/R活動の本質を踏まえながら、再編してゆく必要があるのではないのでしょうか。
- 2) 今日、L/R活動あるいは活動におけるL/R的要素は、日常生活における諸活動の中に、ますます深く浸透し、豊かな人間生活を考える上で不可欠な要素となってきました。環境整備上に現れつつあるL/Rに関わる様々な変化を探ると同時に、それらを通して、生活におけるL/Rの位置づけや役割の変化についても議論してみたいと考えています。
- 3) 問題提起としては、ゲストを招く予定にしています。

■ 第6回 L/R-Environmet 分野

『非日常性L/R環境の課題』

日時 平成5年7月3日(土) 14:00~17:00
場所 明治大学和泉校舎

- 1) L/R活動に対する志向の変化は、日常生活空間を離れての活動にも大きな影響を与えています。「リゾート」に対する希求はその現れと言えるのではないのでしょうか。非日常性L/R環境整備の在り方もまた、新たなパラダイムが求められています。
- 2) 近年、キャンプをはじめカヌーやラングラウフなど「自然」と深く関わる活動や、農村型リゾートなど地域との交流をベースにしたL/R活動が、話題を集めるようになってきました。自然(空間)や地域との接触を重視した滞在・滞留型のL/R活動環境整備の在り方について、議論してみたいと考えています。
- 3) 問題提起としては、ゲストを招く予定にしています。

■ 第7回 L/R-Industry 分野

『「生活」重視の産業構造への転換』

日時 平成5年9月4日(土) 14:00~17:00
場所 明治大学和泉校舎

- 1) 通産省は、21世紀社会に向けての産業政策ビジョンを「国際性、文化性、活力とゆとり」をキーワードに構想しています。そして、「生活」重視の産業モデルとして、レジャー産業の振興に力を入れています。
- 2) レジャー産業問題が、わが国の1970年代からの産業政策の中に、どのように位置づけられてきたかをレビューしながら、21世紀の産業政策にどのように位置づけられようとしているのか、また位置づけられるべきかを考えてみたいと思います。

■ 第8回 L/R-Industry 分野

『レジャー産業と企業経営』

日時 平成5年10月9日(土) 14:00~17:00
場所 明治大学和泉校舎

- 1) わが国のレジャー産業の市場規模は72兆円に達し、量的には既に巨大産業に成長しています。しかし、その市場構成をみると、3分の1がパチンコ、公営競技で、スポーツ、出版、芸術等の市場規模は極端に小さいのが特徴です。
- 2) いかにすれば量の拡大に対し、質の向上をはかることができるか。文化、財政学、経済学から成る文化経済学についての研究、交流を行いながら、レジャー産業の経営理念を検討し、経営の実際のあり方を探ってみたいと思います。

■ 第9回 L/R-Policy 分野

『時短推進を支える社会経済理論（1）』

日時 平成5年12月4日（土） 14:00～17:00
場所 明治大学和泉校舎

- 1) わが国政府は、近い将来年間1800時間労働を実現すると、内外に発表していますが、なんのための時短推進か、理論的つめがあいまいなように思われます。そこで欧米では時短推進をいかなる考え方に沿って行っているのか、その考え方をレビューしてみようと思います。
- 2) 次に、現在、ILO、OECD、EC、アメリカがどのようなタイム・バシユット政策を構想しているか、レクチャー（ゲスト）を受け、みなさんと日本の場合のあり方を議論しようと思います。

■ 第10回 L/R-Policy 分野

『時短推進を支える社会経済理論（2）』

日時 平成6年1月29日（土） 14:00～17:00
場所 明治大学和泉校舎

- 1) 人生80年の70万時間の内5分の3は、地域社会で消費されているといわれています。しかしわが国の日常の自由時間環境整備は、欧米に比べ著しく立ち遅れています。
- 2) わが国は、この日常の自由時間環境整備のために、生活大国づくり、社会資本の充実をあげていますが、どのような社会システムをデザインし、そこにレジャー問題を位置づけるべきなのか、学際的に討議したいと思います。